

MOTOKŌ MUSEUM

プロジェクト資料

(元町高架下再活用)

1 モトコーの開発コンセプト

モトコーローカリズム

モトコーローカリズムとは、アフターコロナを見据えグローバル化することが不可能になりつつある市場経済には振り回されない、個性豊かな世界観を持つモトコー商店街**復活**のシナリオである。



2 モトコーの歴史

- 1 **時代に寄り添いながら発展** して来たマーケットであること
- 2 **新しい街への生活動線** であり
歴史ある街への誘導導線 として発展して来たこと
- 3 **歴史を尊重し、地域の特性と結びついた特徴的な性質** を持つこと
(国際性、ダイバーシティ、らしさのある商業集積)



○1950年代のモトコー

大空襲後の戦後戦災者が雨風を逃れて現在の高架下に集まり、高架下で食べ物を売る商人が登場し、店や、マーケットが誕生

3 モトコー開発が達成すべきビジョン

1

**空間の
活性化**

心地よい導線をつくることで「イベントなどが開催しやすい環境」

2

**若者を取り込む
取組み**

若手アーティストや事業者の新規参入をサポートすることで「インキュベーターの機能」

3

**環境への
配慮**

清掃活動、地産地消、廃材活用、リサイクル、アップサイクル「持続可能な行動を起こす」

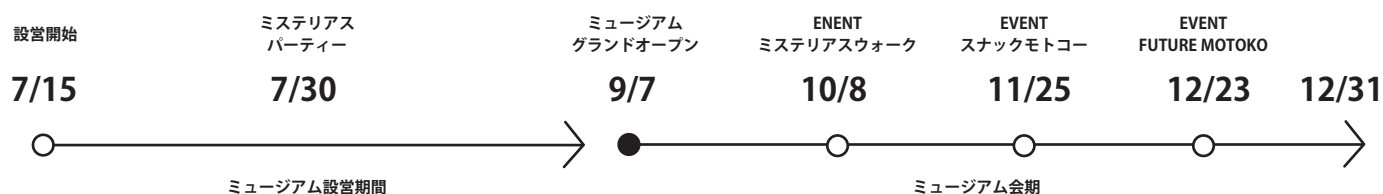
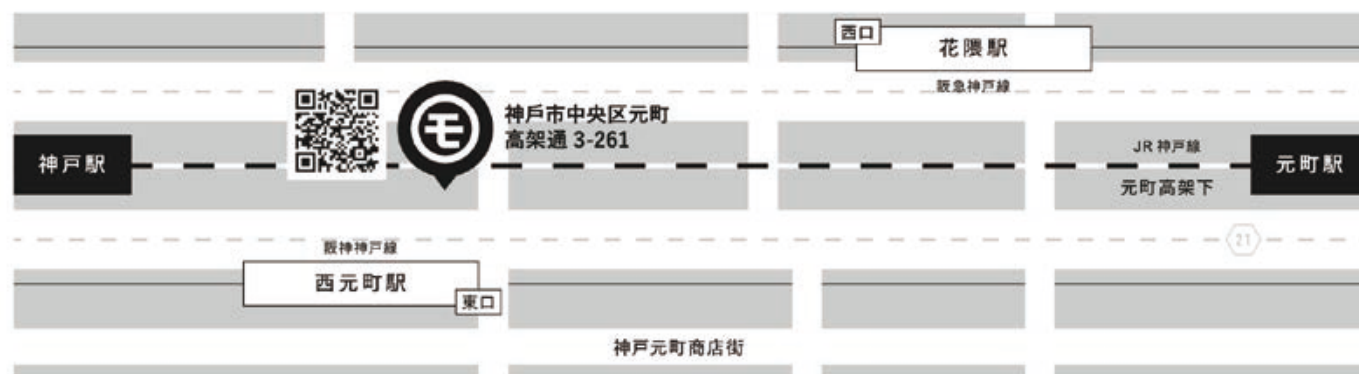
4

**地域社会
との関わり**

自治体、非営利団体、学校との連携で「子供への教育と高齢者のサポート」

戦後、市民の生活に必要なものをいち早く取り揃え、日々の暮らしを豊かにしたモトコー。高度経済成長時代、若者の夢を育み、港の発展を下支えしたモトコー。多種多様な価値を生み出してきたモトコーへの想いを込め、高架下にあるものを活用して歴史をオマージュ。アート化して立体的に展示。これまでの歴史に感謝と尊敬を込めて、未来へと繋ぐモトコーミュージアムが開館します。

2023年9月



○ 戦前からの歴史を持つ元町高架下そのものをミュージアム化

モトコー6区画の一部をミュージアムに見立て、当時を伝える建物のなかでアート作品を体験、鑑賞します。ミュージアムそのものも作品として、クリエイターと共につくりあげます。

○ 土地の歴史、記憶、経験を伝えるアート作品

高架下にあるもの、かつてあったものをオマージュした作品など、土地の歴史、記憶からインスパイアされた作品群が並びます。

○ モトコーをクリエイターにひろげるリアルイベント

さまざまなクリエイターが関わることで、モトコーの魅力を感じさせるイベントを開催します。

モトコープロジェクトプロデューサー | コメント

モトコーは、戦前・戦後の暮らしや仕事を支える重要な場所でした。物やサービスに溢れかえった現代、そして未来において、暮らしや仕事を豊かに支えるものは一体なんでしょうか？私はそのヒントがモトコーに必ずあると思っています。これからの時代の豊かさを支える舞台として、様々な情報やモノ、人々が集い、再構築していくことで新たな未来を描いていきたいと思っています。



入川ひでと

プロジェクトプロデューサー 入川スタイル & ホールディングス 代表取締役社長兼 CEO

東急沿線成長戦略、京王電鉄多摩センターエリアブランディング、UNIQLO 原宿 UT 店舗プロデュース、六本木ヒルズ TSUTAYA TOKYO ROPPONGI 店舗プロデュース。事業創造においては、(株)カフェカンパニー、(株)ダブリュースカンパニーなど「カフェが街をつくる」をコンセプトに日本全国の地域コミュニティを再生する事業を展開。神奈川県 / 大磯町、奈良県 / 東吉野、島根県 / 浜田市、兵庫県 / 神戸市、などでのコミュニティ再生をカフェなどの開発を通して実践している。青山学院大学、東京経済大学、東京首都大学、などで長期講座を持つ。テーマは「カフェを通じた地域コミュニティの再生」。ソーシャルワークとして「東北震災復興リーダー支援プロジェクト」、「東北起業家育成・事業構想支援プログラム」、などのメンターを長期に渡り実装。著作に「カフェが街をつくる」クロスメディアパブリッシング出版。

モトコーミュージアム ディレクター | コメント

「現在」に「未来」はあるをコンセプトに活動してきましたが、まさに元町高架下プロジェクトに希望と未来を感じます。営みから生まれてきたリアルな過去が効率化のもと世の中から姿を消していく様は寂しいです。過去を否定するクリエイティブではなく、先人達の築いてきた多くの要素をみつけだし、未来を現代にうみだしていきたいです。今この街に求められている存在とはどんな場所なのか？最終的には取り壊されてしまいますが、スクラップアンドビルドで来た日本社会を見直す場所にしていきたいです。



岡本 亮

ミュージアムディレクター 株式会社ムサシ CDO / 現代美術家 CALMA

1996年ロンドン、カンパウェル・アートスクール、1997年セントラル・セントマーティンズ・アート & デザインで芸術を学ぶ。1999年 IDEESHOP pacific TOKYO 企画個人展「moon light tent」、翌年「オオカミにならない犬」を経て英国より帰国。輸入雑貨、オリジナル製品ブランド「EINSHOP(アインショップ)」を創設、総合プロデュースをしながらアーティストとして国内外で数々の作品やイベントを発表。2019年現代美術ブランド「CALMA by Ryo Okamoto」設立。全国の芸術祭、デザインフェアにて活動。2022年兵庫県の老朽施設を独自で開拓し、「都会と自然」を体感できる場、人を育てる拠点「ON THE HILL」を創り出す。

モトコーミュージアムメンバー

■プロデューサー：

入川ひと

■ミュージアムディレクター / アーティスト：

岡本亮

■デザイン：

岡本佳代子

■参画アーティスト：

石田真也、東條新、野崎将太、吉本冴秀、yokoyama 宇宙、西岡潔&more

■設営サポート：

菅野大門、山本ひいろ、武藤頼次郎

■サポーター：

岡本篤、平沼昌英、米山なつ、河村操、富真美、惣塚利郎、遠山敦、
岡田さち、藤本リヨ、べっしょいさむ、サニー、いしどころじ、友井陽子、
管靖香、小野 佑真、たじまこうき、池田義文、樋口侑美、池田真之介、
上野佑輔



岡本亮



東條新



野崎将太



西岡潔



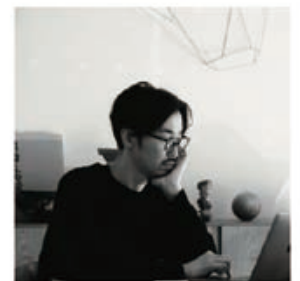
石田真也



吉本冴秀



yokoyama 宇宙



菅野大門

モトコーミュージアムプレイベント

5 ミステリアスパーティー | 7/30

グラントオープンに先立ち、地域住民の方々への披露目として ミステリアスパーティーを 7/30 に開催しました。地域の方々を中心に約 200 名の方々が来場し、モトコーエリアの未来に期待を寄せていただきました。



: 当日のフライヤー

MOVIE



イベントを記録した映像はこちら

参加アーティスト:

LIVE: Tatsuya Nishimura

Event Support: NOMA

Movie: Wakimura Eizou

モトコーミュージアムグランドオープン

6 9/7の内容

「モトコーミュージアム」を開館にあたり、オープニングカンファレンスを開催。様々なゲストを迎えてプロジェクトのプロデューサー、ディレクターを交えて「モトコー」の魅力や、これからどのようにアップデートしていくのか、プロジェクトの今後についてもご案内を予定しています。

REMEMBER
MOTOMACHI
UNDERPASS

MOTOKO MUSEUM

9/7 open

戦後の復興の狼煙として活躍した、
モトコー商店街。
高度経済成長時代、若者の夢を育き、
神戸港の発展を支えた
「モトコー」に感謝の気持ちを
込めて、「モトコーミュージアム」
という空間にアート化。
それらを立体的に展示した場所が
9月7日にオープンします。
束の間の伝説をここに。

created by
CALMA
BY RYO OKAMOTO

モトコーミュージアム
営業日 / 土曜日、日曜日、祝日 13:00~17:00
実施期間 / 2023年9月7日~12月31日
会場 / モトコータウン6
住所 / 神戸市中央区元町通3-261
最寄駅 / 神戸駅より線路沿い東へ徒歩10分
主催者 / 元高プロジェクト実行委員会
問合せ / 080-3848-1269 (担当: 浅田)

motoko pj.jp CALMA

株式会社
JR西日本不動産開発株式会社

■ プログラム / タイムスケジュール 「廃墟 (荒廃したエリア) 活用が街再興の引き金になる」

time	プログラム	概要
16:00-	オープニングトーク	- 荒廃したエリアとは？ ベルリンの事例 入川ひとと / プロデューサー
16:25-	カンファレンス： トークセッション	<セッションテーマ> 「廃墟 (荒廃したエリア) 活用が街再興の引き金になる」 1： 各ゲストによる活動紹介 (各5分) - 「マッドシティ / (千葉県松戸市)」 寺井元一 - 「大磯ドミナント / (神奈川県大磯町)」 原大祐 - 「西灘高架下 / (兵庫県神戸市)」 小泉寛明 2： トークセッション / 「廃墟活用の魅力とは？」
17:15-17:30	モトコーの魅力	- 湊川商店街 / リアル神戸コミュニティ 岡本亮
18:00-21:00	OPENING PARTY	DJ / FOOD / DRINK

■ OPENING PARTY 18:00-21:00



【DJ】

横山宇宙
GREENWORKS
ダイゴロー
KEITAP
々 crew

【FOOD/DRINK】

Cafe restaurant & bar ON THE HILL
BREADMAN
Youth Coffee
Cucina 朱 iro
ハレとケ

■ トークセッション | ゲストご紹介



小泉 寛明

有限会社 Lusie 代表 / 神戸 R 不動産運営

関西学院大学経済学部卒。カリフォルニア大学アーバイン校ソーシャルエコロジー学部都市計画修士号。1999年森ビル株式会社入社。2006年より株式会社アイディーユープラス取締役。2010年神戸にて有限会社 Lusie 代表就任。「自転車 10分圏内のエリアディベロプメント」を志し、神戸 R 不動産事業をスタート。KITANOMAD、FARMSTAND、ケハレ、ROKKONOMAD 運営。(一社)KOBE FARMERS MARKET 代表理事。(一社)HAAYMM 理事 (Airtist in Residence KOBE 運営)。



寺井 元一

株式会社まちづくりクリエイティブ代表取締役 / NPO 法人 KOMPOSITION 代表理事

1977年兵庫県生まれ。統計解析を扱う計量政治を学ぶ大学院生時代に東京・渋谷でNPO法人KOMPOSITIONを起業し、ストリートバスケの「ALLDAY」、ストリートアートの「リーガルウォール」などのプロジェクトを創出した。その後、経験を活かして「クリエイティブな自治区」をつくることを掲げて株式会社まちづくりクリエイティブを起業。千葉・松戸駅前エリアでモデルケースとなる「MAD City」を展開しながら、そこで培った地域価値を高めるエリアブランディングの知見や実践を活かして全国の都市再生や開発案件に関わっている。MAD Cityは空家の利活用に関わる不動産、アーティストやクリエイターとの協業、ローカルビジネスの起業支援、官民連携のプラットフォームなど、複合的なサービスを提供。



原 大祐

Co.Lab 代表取締役 / NPO 法人西湘をあそぶ会 代表理事

1978年生まれ。神奈川県大磯町在住。コンサル会社勤務後、2006年Co.Lab設立、2008年特定非営利活動法人西湘をあそぶ会を設立。大磯町を中心とした西湘エリアにて地域再生を行っている。遊休している地域資産をアップデートすることでサステナブルで個性ある地域づくりに取り組む。港の再生(神奈川県下最大朝市「大磯市」の開催、漁協直営の食堂のプロデュース)、荒廃農地再生事業(コミュニティ農園「大磯農園」の運営)、空き家空き店舗・団地の再生(カフェ&本屋・シェアキッチン)の運営、郵便局の倉庫利活用(コワーキングスペース&保育園)の運営など。

■ モトコマーケット ディレクター兼 PR 担当



岡本 篤

株式会社ムサシ代表取締役社長 / 社会起業家

園芸製品やセンサーライトのトップメーカー株式会社ムサシ代表取締役。経営者をつとめながら、2017年から地元に加古川市で「ムサシオープンデパート朝市」を毎週開催。累計250回以上となり、いまや街の顔のひとつに育てた。高頻度の開催とボランティアや出店者と一体となった運営を特徴としている。発端のひとつが、東日本大震災や熊本大地震、西日本大水害の復旧活動の立ち上げリーダーとしての活動である。朝市の運営には、発災直後の被災地で着想をえたコミュニティ・ビルディング手法を多数導入している。大阪外国語大学スペイン語専攻卒。元冒険家志望で、南米パンタナールの単独カヤックソロツアーリングは日本人初。

お問い合わせ

元高プロジェクト実行委員会
TEL: 080-3848-1269 (担当: 浅田)

MOTOKO
MUSEUM



web

10/8 モトコーミステリアスウォーク

7 年内のイベント紹介 1



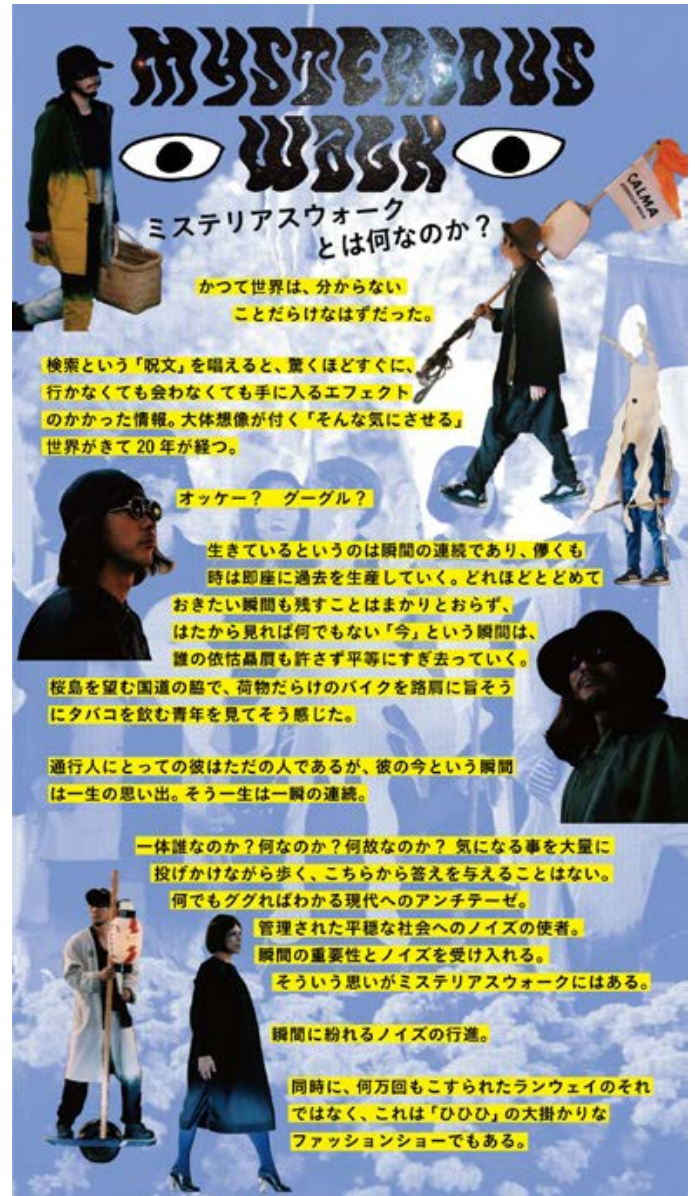
モトコータウン6
あじさいの街

MYSTERIOUS WALK PARTY

ミステリアスウォーク 8 パーティ

2023/08/15
OPEN 17:00
START 18:00
Live, Food and more....

created by CALMA
HEMIMI



MYSTERIOUS WALK

ミステリアスウォークとは何なのか？

かつて世界は、分からないことだらけなはずだった。

検索という「呪文」を唱えようと、驚くほどすぐに、行かなくても会わなくても手に入るエフェクトのかかった情報。大体想像が付く「そんな気にさせる」世界がきて20年が経つ。

オッケー？ グーグル？

生きているというのは瞬間の連続であり、俣くも時は即座に過去を生産していく。どれほどとどめておきたい瞬間も残すことはまかりとおらず、はたから見れば何でもない「今」という瞬間は、誰の依怙も許さず平等にすぎ去っていく。

桜島を望む国道の脇で、荷物だらけのバイクを路肩に旨そうにタバコを飲む青年を見てそう感じた。

通行人にとっての彼はただの人であるが、彼の今という瞬間は一生の思い出。そう一生は一瞬の連続。

一体誰なのか？何なのか？何故なのか？気になる事を大量に投げかけながら歩く、こちらから答えを与えることはない。何でもググればわかる現代へのアンチテーゼ。

管理された平穏な社会へのノイズの使者。瞬間の重要性とノイズを受け入れる。そういう思いがミステリアスウォークにはある。

瞬間に粉れるノイズの行進。

同時に、何万回もこすられたランウェイのそれではなく、これは「ひひひ」の大掛かりなファッションショーでもある。

※台風のため 8/15 から 10/8 に順延になりました。

日時 2023.10.8 (日) 17:00 OPEN | 18:00 START

開催場所 モトコーミュージアム
(兵庫県神戸市中央区元町高架通 3-261)

詳細 近日公開予定

11/25 スナックモトコー

8

年内のイベント紹介 2

各地からスペシャルゲストを招いて、一夜限りのスナックがモトコーに誕生。



■ スナック ゲストご紹介



田中 元子 グランドレベル代表

2004年より建築関係のメディアづくりに従事。2010年よりワークショップ「けんちく体操」に参加。2016年「1階づくりはまちづくり」をモットーに、株式会社グランドレベルを設立。さまざまな施設や空間、まちづくりのコンサルティングやプロデュースを手がける。2018年「喫茶ランドリー」開業。2019年「JAPAN/TOKYO BENCH PROJECT」始動。主な受賞に「2018年度グッドデザイン特別賞 グッドフォーカス [地域社会デザイン] 賞」、「2013年日本建築学会教育賞（教育貢献）」ほか



指出一正 『ソトコト』編集長

島根県「しまコトアカデミー」メイン講師、広島県「ひろしま里山ウェーブ拡大プロジェクト」全体統括メンター、高知県文化広報誌『とさぶし』編集委員、静岡県『『地域のお店』デザイン表彰』審査委員長、奈良県「奥大和アカデミー」メイン講師、奈良県下北山村「奈良・下北山むらコトアカデミー」メイン講師、広島県「ひろしま さとやま未来博2017」総合監修、長野県長野市WEBメディア『ナガラボ』編集長をはじめ、地域のプロジェクトに多く携わる。著書に『ぼくらは地方で幸せを見つける』（ポプラ新書）



福野 博昭 平川商事株式会社社長室顧問 / 総務省地域力創造アドバイザー

昭和35（1960）年、奈良県奈良市生まれ。元知事公室次長・南部東部振興・移住交流担当。高校を卒業後、18歳で奈良県庁へ入庁。以来「ならの魅力創造課」「南部東部振興課」など12の部署で、スピードと実行力、プロデュース力でさまざまな改革と地域活性化を行う。退官前の10年以上は奥大和地域のブランディングに取り組む。42年間勤めた奈良県庁を令和3（2021）年3月に定年退官。現在、全国の新規事業立ち上げなどに取り組んでいる。2021年9月には初の著書「ライク・ア・ローリング公務員」（木楽舎）を刊行した。

各界のトップランナーを招いて、未来のモトコについて話すトークイベント



■ トーク ゲストご紹介



中川 淳

株式会社中川政七商店 外表取締役会長

京都大学法学部卒業後、2000年富士通株式会社入社。2002年に株式会社中川政七商店に入社し、2008年に十三代社長に就任、2018年より会長を務める。業界初の工芸をベースにしたSPA業態を確立し、「日本の工芸を元気にする！」というビジョンのもと、業界特化型の経営コンサルティング事業を開始。初クライアントである長崎県波佐見焼の陶磁器メーカー、有限会社マルヒロでは新ブランド「HASAMI」を立ち上げ空前の大ヒットとなる。現在は奈良の地に数多くのスモールビジネスを生み出し、街を元気にするプロジェクト「N.PARK PROJECT」を提唱、産業観光によるビジョンの実現を目指している。



齋藤 精一

パノラマティクス

1975年神奈川県生まれ、東京理科大学工学部建築学科卒。建築デザインをコロンビア大学建築学科（MS AAD）で学び、2000年からニューヨークで活動を開始。その後 Arnell Group にてクリエイティブとして活動し、2003年の越後妻有アートトリエンナーレでのアーティスト選出を機に帰国。その後フリーランスのクリエイターとして活躍後、2006年株式会社ライゾマティクス設立、現在、株式会社ライゾマティクス代表取締役、京都精華大学デザイン学科非常勤講師、2013年 D&AD Digital Design 部門審査員、2015年ミラノエキスポ日本館シアターコンテンツディレクター、六本木アートナイト 2015年にてメディアアートディレクター、2018-2021年グッドデザイン賞審査委員副委員長。2020年ドバイ万博 日本館クリエイティブ・アドバイザー。

SPECIAL GUEST

現在調整中



JR 西日本不動産開発株式会社



入川スタイル&ホールディングス株式会社



株式会社ダブリューズカンパニー



株式会社ムサシ



CALMA



一般社団法人 LOCAL COWORK ASSOCIATION

お問い合わせ

元高プロジェクト実行委員会

TEL: 080-3848-1269 (担当: 浅田)

MOTOKŌ
MUSEUM



web